

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

Ⓕ

# 数 学 ②

数学Ⅱ・数学B

(100点)  
(60分)

この問題冊子には、「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」の2科目を掲載しています。解答する科目を間違えないよう選択しなさい。

工業数理基礎、簿記・会計及び情報関係基礎の問題冊子は、大学入試センター試験の出願時に、それぞれの科目の受験を希望した者に配付します。

## I 注 意 事 項

1 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

### ① 受験番号欄

受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

### ② 氏名欄、試験場コード欄

氏名・フリガナ及び試験場コード(数字)を記入しなさい。

### ③ 解答科目欄

解答する科目を一つ選び、科目名の下の○にマークしなさい。マークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。

2 出題科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出 題 科 目	ペ ー ジ	選 択 方 法
数 学 Ⅱ	4～14	左の2科目のうちから1科目を選択し、解答しなさい。
数学Ⅱ・数学B	15～25	

3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

4 選択問題については、解答する問題を決めたあと、その問題番号の解答欄に解答しなさい。ただし、指定された問題数をこえて解答してはいけません。

5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

6 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

## II 解 答 上 の 注 意

解答上の注意は、裏表紙に記載してあるので、この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。ただし、問題冊子を開いてはいけません。

## II 解答上の注意

- 1 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。
- 2 問題の文中の **ア**， **イウ** などには、特に指示がないかぎり、符号(－)、数字(0～9)、又は文字(a～d)が入ります。ア、イ、ウ、…の一つ一つは、これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙のア、イ、ウ、…で示された解答欄にマークして答えなさい。

例 **アイウ** に  $-8a$  と答えたいとき

ア	<input checked="" type="radio"/>	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	a	b	c	d
イ	<input type="radio"/>	0	1	2	3	4	5	6	7	<input checked="" type="radio"/>	9	a	b	c	d
ウ	<input type="radio"/>	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	<input checked="" type="radio"/>	b	c	d

なお、同一の問題文中に **ア**， **イウ** などが2度以上現れる場合、2度目以降は、**ア**， **イウ** のように細字で表記します。

- 3 分数形で解答する場合、分数の符号は分子につけ、分母につけてはいけません。

例えば、 $\frac{\text{エオ}}{\text{カ}}$  に  $-\frac{4}{5}$  と答えたいときは、 $-\frac{4}{5}$  として答えなさい。

また、それ以上約分できない形で答えなさい。

例えば、 $\frac{3}{4}$ ，  $\frac{2a+1}{3}$  と答えるところを、 $\frac{6}{8}$ ，  $\frac{4a+2}{6}$  のように答えてはいけません。

- 4 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。

例えば、 $4\sqrt{2}$ ，  $\frac{\sqrt{13}}{2}$ ，  $6\sqrt{2a}$  と答えるところを、 $2\sqrt{8}$ ，  $\frac{\sqrt{52}}{4}$ ，  $3\sqrt{8a}$  のように答えてはいけません。

# 数学Ⅱ・数学B

問 題	選 択 方 法
第 1 問	必 答
第 2 問	必 答
第 3 問	いずれか 2 問を選択し、 解答しなさい。
第 4 問	
第 5 問	
第 6 問	

第1問 (必答問題) (配点 30)

[1]  $a > 0$ ,  $a \neq 1$ として、不等式

$$2 \log_a(8-x) > \log_a(x-2) \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

を満たす  $x$  の値の範囲を求めよう。

真数は正であるから、 $\boxed{\text{ア}} < x < \boxed{\text{イ}}$  が成り立つ。ただし、対数  $\log_a b$  に対し、 $a$  を底といい、 $b$  を真数という。

底  $a$  が  $a < 1$  を満たすとき、不等式  $\textcircled{1}$  は

$$x^2 - \boxed{\text{ウエ}} x + \boxed{\text{オカ}} \boxed{\text{キ}} 0 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

となる。ただし、 $\boxed{\text{キ}}$  については、当てはまるものを、次の $\textcircled{0} \sim \textcircled{2}$ のうちから一つ選べ。

$\textcircled{0} < \qquad \qquad \qquad \textcircled{1} = \qquad \qquad \qquad \textcircled{2} >$

(数学Ⅱ・数学B第1問は次ページに続く。)

## 数学Ⅱ・数学B

したがって、真数が正であることと②から、 $a < 1$ のとき、不等式①を満たす $x$ のとり得る値の範囲は  $\boxed{\text{ク}} < x < \boxed{\text{ケ}}$  である。

同様にして、 $a > 1$ のときには、不等式①を満たす $x$ のとり得る値の範囲は  $\boxed{\text{コ}} < x < \boxed{\text{サ}}$  であることがわかる。

(数学Ⅱ・数学B第1問は次ページに続く。)

## 数学Ⅱ・数学B

[2]  $0 \leq \alpha \leq \pi$ として

$$\sin \alpha = \cos 2\beta$$

を満たす  $\beta$  について考えよう。ただし、 $0 \leq \beta \leq \pi$ とする。

たとえば、 $\alpha = \frac{\pi}{6}$  のとき、 $\beta$  のとり得る値は  $\frac{\pi}{\boxed{\text{シ}}}$  と  $\frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{シ}}}\pi$  の

二つである。

このように、 $\alpha$  の各値に対して、 $\beta$  のとり得る値は二つある。そのうちの小さい方を  $\beta_1$ 、大きい方を  $\beta_2$  とし

$$y = \sin\left(\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3}\right)$$

が最大となる  $\alpha$  の値とそのときの  $y$  の値を求めよう。

$\beta_1, \beta_2$  を  $\alpha$  を用いて表すと、 $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$  のときは

$$\beta_1 = \frac{\pi}{\boxed{\text{セ}}} - \frac{\alpha}{\boxed{\text{ソ}}}, \quad \beta_2 = \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{セ}}}\pi + \frac{\alpha}{\boxed{\text{ソ}}}$$

となり、 $\frac{\pi}{2} \leq \alpha \leq \pi$  のときは

$$\beta_1 = -\frac{\pi}{\boxed{\text{チ}}} + \frac{\alpha}{\boxed{\text{ツ}}}, \quad \beta_2 = \frac{\boxed{\text{テ}}}{\boxed{\text{チ}}}\pi - \frac{\alpha}{\boxed{\text{ツ}}}$$

となる。

(数学Ⅱ・数学B第1問は次ページに続く。)

したがって、 $\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3}$  のとり得る値の範囲は

$$\frac{\boxed{\text{ト}}}{\boxed{\text{ナ}}}\pi \leq \alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} \leq \frac{\boxed{\text{ニ又}}}{\boxed{\text{ネ}}}\pi$$

である。よって、 $y$  が最大となる  $\alpha$  の値は  $\frac{\boxed{\text{ノ}}}{\boxed{\text{ハヒ}}}\pi$  であり、そのときの

$y$  の値は  $\boxed{\text{フ}}$  であることがわかる。 $\boxed{\text{フ}}$  に当てはまるものを、次の  
 ①～③のうちから一つ選べ。

①  $\frac{1}{2}$

② 1

③  $\frac{\sqrt{2}}{2}$

④  $\frac{\sqrt{3}}{2}$

数学Ⅱ・数学B

第2問 (必答問題) (配点 30)

座標平面上で曲線  $y = x^3$  を  $C$  とし、放物線  $y = x^2 + px + q$  を  $D$  とする。

(1) 曲線  $C$  上の点  $P(a, a^3)$  における  $C$  の接線の方程式は

$$y = 3a \boxed{\text{ア}} x - \boxed{\text{イ}} a \boxed{\text{ウ}}$$

である。放物線  $D$  は点  $P$  を通り、 $D$  の  $P$  における接線と、 $C$  の  $P$  における接線が一致するとする。このとき、 $p$  と  $q$  を  $a$  を用いて表すと

$$\begin{cases} p = 3a \boxed{\text{エ}} - \boxed{\text{オ}} a \\ q = \boxed{\text{カキ}} a^3 + a \boxed{\text{ク}} \end{cases} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

となる。

以下、 $p, q$  は  $\textcircled{1}$  を満たすとする。

(数学Ⅱ・数学B第2問は次ページに続く。)



(2) 放物線  $D$  が  $y$  軸上の与えられた点  $Q(0, b)$  を通るとき

$$b = \boxed{\text{ケコ}} a^3 + a^{\boxed{\text{サ}}} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

が成り立つ。与えられた  $b$  に対して、 $\textcircled{2}$  を満たす  $a$  の値の個数を調べよう。

そのために、関数

$$f(x) = \boxed{\text{ケコ}} x^3 + x^{\boxed{\text{サ}}}$$

の増減を調べる。関数  $f(x)$  は、 $x = \boxed{\text{シ}}$  で極小値  $\boxed{\text{ス}}$  をとり、

$$x = \frac{\boxed{\text{セ}}}{\boxed{\text{ソ}}} \text{ で極大値 } \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チツ}}} \text{ をとる。}$$

関数  $y = f(x)$  のグラフをかくことにより、 $\boxed{\text{ス}} < b < \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チツ}}}$  のと

き、 $\textcircled{2}$  を満たす  $a$  の値の個数は  $\boxed{\text{テ}}$  であることがわかる。

(3) 放物線  $D$  の頂点が  $x$  軸上にあるのは、 $a = \boxed{\text{ト}}$  ,  $\frac{\boxed{\text{ナ}}}{\boxed{\text{ニ}}}$  の二つの場

合である。 $a = \boxed{\text{ト}}$  のときの放物線を  $D_1$  ,  $a = \frac{\boxed{\text{ナ}}}{\boxed{\text{ニ}}}$  のときの放物線

を  $D_2$  とする。 $D_1$  ,  $D_2$  と  $x$  軸で囲まれた図形の面積は  $\frac{2 \times \boxed{\text{ヌ}}}{3 \times \boxed{\text{ネノ}}}$  である。

第3問 (選択問題) (配点 20)

$\{a_n\}$ を  $a_2 = -\frac{7}{3}$ ,  $a_5 = -\frac{25}{3}$  である等差数列とし、自然数  $n$  に対して、

$$S_n = \sum_{k=1}^n a_k \text{ とおく。}$$

$a_1 = \frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウ}}}$  であり、 $\{a_n\}$ の公差は  $\boxed{\text{エオ}}$  である。したがって

$$a_n = \boxed{\text{カキ}} n + \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$$S_n = \boxed{\text{コ}} n^2 + \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

である。

(数学Ⅱ・数学B第3問は次ページに続く。)

次に、数列 $\{b_n\}$ は

$$\sum_{k=1}^n b_k = \frac{4}{3} b_n + S_n \quad (n=1, 2, 3, \dots) \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

を満たすとする。数列 $\{b_n\}$ の一般項を求めよう。①から、 $b_1 = \boxed{\text{ス}}$ であ

る。さらに、 $\sum_{k=1}^{n+1} b_k = \sum_{k=1}^n b_k + b_{n+1}$ に注意して、①を利用すると

$$b_{n+1} = \boxed{\text{セ}} b_n + \boxed{\text{ソ}} n + \boxed{\text{タ}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

が成り立ち、この等式は

$$\begin{aligned} & b_{n+1} + \boxed{\text{チ}}(n+1) + \boxed{\text{ツ}} \\ &= \boxed{\text{セ}}(b_n + \boxed{\text{チ}}n + \boxed{\text{ツ}}) \quad (n=1, 2, 3, \dots) \end{aligned}$$

と変形できる。ここで

$$c_n = b_n + \boxed{\text{チ}}n + \boxed{\text{ツ}} \quad (n=1, 2, 3, \dots) \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

とおくと、 $\{c_n\}$ は、 $c_1 = \boxed{\text{テ}}$ 、公比が $\boxed{\text{ト}}$ の等比数列であるから、

②により

$$b_n = \boxed{\text{ナ}} \boxed{\text{ニ}}^n - \boxed{\text{ヌ}}n - \boxed{\text{ネ}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

である。ただし、 $\boxed{\text{ニ}}$ については、当てはまるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①  $n-2$     ②  $n-1$     ③  $n$     ④  $n+1$     ⑤  $n+2$

第4問 (選択問題) (配点 20)

空間に異なる4点O, A, B, Cを,  $\vec{OA} \perp \vec{OB}$ ,  $\vec{OB} \perp \vec{OC}$ ,  $\vec{OC} \perp \vec{OA}$ となるようにとり,  $\vec{OA} = \vec{a}$ ,  $\vec{OB} = \vec{b}$ ,  $\vec{OC} = \vec{c}$ とおく。さらに, 3点D, E, Fを,  $\vec{OD} = \vec{a} + \vec{b}$ ,  $\vec{OE} = \vec{b} + \vec{c}$ ,  $\vec{OF} = \vec{a} + \vec{c}$ となるようにとり, 線分BDの中点をL, 線分CEの中点をMとし, 線分ADを3:1に内分する点をNとする。

(1)  $\vec{OM}$ ,  $\vec{ON}$ は,  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ を用いて

$$\vec{OM} = \frac{1}{\boxed{\text{ア}}} \vec{b} + \vec{c}, \quad \vec{ON} = \vec{a} + \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}} \vec{b}$$

と表される。

(2) 2直線FL, MNが交わることを確かめよう。  $0 < s < 1$ とし, 線分FLを  $s : (1 - s)$ に内分する点をPとする。 $\vec{OP}$ は,  $s$ と $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ を用いて

$$\vec{OP} = \left( \boxed{\text{エ}} - \frac{s}{\boxed{\text{オ}}} \right) \vec{a} + s \vec{b} + \left( \boxed{\text{カ}} - s \right) \vec{c}$$

と表される。 $s = \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}}$ のとき,  $\vec{MP} = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}} \vec{MN}$ となるので, M,

N, Pは一直線上にある。よって, 2直線FL, MNは交わることがわかる。

(数学Ⅱ・数学B第4問は次ページに続く。)

(3) 2直線 FL, MN の交点を G とする。  $\vec{OG}$ ,  $\vec{GF}$  は,  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を用いて

$$\vec{OG} = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} \left( \boxed{\text{ス}} \vec{a} + \boxed{\text{セ}} \vec{b} + \vec{c} \right)$$

$$\vec{GF} = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} \left( \vec{a} - \boxed{\text{セ}} \vec{b} + \boxed{\text{ソ}} \vec{c} \right)$$

と表される。

$|\vec{a}| = \sqrt{5}$ ,  $|\vec{b}| = 4$ ,  $|\vec{c}| = \sqrt{3}$  とする。このとき,  $|\vec{GF}| = \boxed{\text{タ}}$ ,  $|\vec{GM}| = 2$  となる。

次に, 直線 OC 上に点 H をとり, 実数  $t$  を用いて,  $\vec{OH} = t\vec{c}$  と表す。  
 $\vec{GF} \cdot \vec{GH}$ ,  $\vec{GM} \cdot \vec{GH}$  は,  $t$  を用いて

$$\vec{GF} \cdot \vec{GH} = \boxed{\text{チ}} t + \frac{\boxed{\text{ツテ}}}{\boxed{\text{ト}}} \dots\dots\dots ①$$

$$\vec{GM} \cdot \vec{GH} = 2t + \frac{10}{3} \dots\dots\dots ②$$

と表される。

さらに,  $\angle FGH = \angle MGH$  とする。このときの  $t$  の値を求めよう。

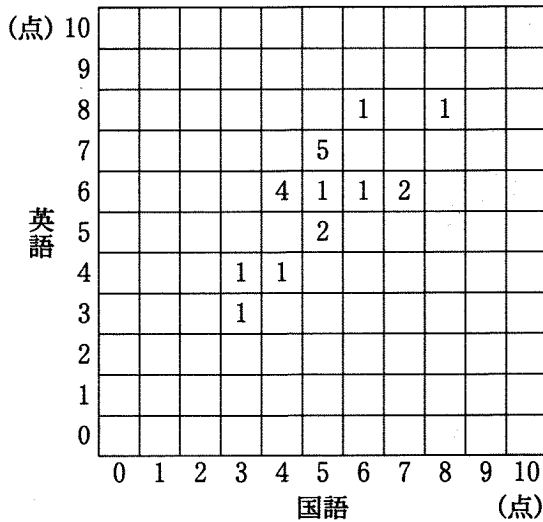
$|\vec{GF}| = \boxed{\text{タ}}$ ,  $|\vec{GM}| = 2$  と  $\angle FGH = \angle MGH$  であることから

$$\vec{GF} \cdot \vec{GH} = \frac{\boxed{\text{ナ}}}{\boxed{\text{ニ}}} \vec{GM} \cdot \vec{GH} \dots\dots\dots ③$$

が成り立つ。①, ②, ③ から,  $t = \frac{\boxed{\text{ヌ}}}{\boxed{\text{ネ}}}$  である。

第5問 (選択問題) (配点 20)

ある高等学校のAクラスには全部で20人の生徒がいる。次の表は、その20人の生徒の国語と英語のテストの結果をまとめたものである。表の横軸は国語の得点を、縦軸は英語の得点を表し、表中の数値は、国語の得点と英語の得点の組み合わせに対応する人数を表している。ただし、得点は0以上10以下の整数値をとり、空欄は0人であることを表している。たとえば、国語の得点が7点で英語の得点が6点である生徒の人数は2である。



また、次の表は、Aクラスの20人について、上の表の国語と英語の得点の平均値と分散をまとめたものである。ただし、表の数値はすべて正確な値であり、四捨五入されていない。

	国語	英語
平均値	B	6.0
分散	1.60	C

(数学Ⅱ・数学B第5問は次ページに続く。)

## 数学Ⅱ・数学B

以下、小数の形で解答する場合、指定された桁数<sup>けた</sup>の一つ下の桁を四捨五入し、解答せよ。途中で割り切れた場合、指定された桁まで○にマークすること。

(1) Aクラスの20人のうち、国語の得点が4点の生徒は  人であり、英語の得点が国語の得点以下の生徒は  人である。

(2) Aクラスの20人について、国語の得点の平均値Bは  .  点であり、英語の得点の分散Cの値は  .  である。

(3) Aクラスの20人のうち、国語の得点が平均値  .  点と異なり、かつ、英語の得点も平均値6.0点と異なる生徒は  人である。

Aクラスの20人について、国語の得点と英語の得点の相関係数の値は  .  である。

(数学Ⅱ・数学B第5問は次ページに続く。)

## 数学Ⅱ・数学B

次の表は、Aクラスの20人に他のクラスの40人を加えた60人の生徒について、前の表と同じ国語と英語のテストの結果をまとめたものである。この60人について、国語の得点の平均値も英語の得点の平均値も、それぞれちょうど5.4点である。

(点)	10													
	9													
	8						1		1					
	7					5			2	1				
	6				4	1	8	5	F					
英語	5				3	5	5	1						
	4		2	2	D	E	2	2						
	3	1		1										
	2													
	1													
	0													
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
		国語 (点)												

- (4) 上の表でD, E, Fを除いた人数は52人である。その52人について、国語の得点の合計は  点であり、英語の得点の合計は288点である。

したがって、連立方程式

$$D + E + F = \text{タ}$$

$$4D + 5E + 8F = \text{チツ}$$

$$4D + 4E + 6F = 36$$

を解くことによって、D, E, Fの値は、それぞれ、人、人、人であることがわかる。

(数学Ⅱ・数学B第5問は次ページに続く。)



数学Ⅱ・数学B

(5) 60人からAクラスの20人を除いた40人について、英語の得点の平均値は  .  点であり、中央値は  .  点である。

(6) 60人のうち、国語の得点が $x$ 点である生徒について、英語の得点の平均値  $M(x)$  と英語の得点の中央値  $N(x)$  を考える。ただし、 $x$  は1以上9以下の整数とする。このとき、 $M(x) \neq N(x)$  となる $x$ は  個ある。一方、 $M(x) < x$  かつ  $N(x) < x$  となる $x$ は  個ある。

第6問 (選択問題) (配点 20)

与えられた二つの自然数  $M$  と  $N$  について、 $M$  から始まる  $N$  個の連続する自然数の積  $M \times (M+1) \times (M+2) \times \cdots \times (M+N-1)$  が 8 で割り切れるかどうかを調べ、その結果を出力する〔プログラム1〕を作成した。ただし、 $\text{INT}(X)$  は  $X$  を超えない最大の整数を表す関数である。

〔プログラム1〕

```

100 INPUT PROMPT "M=":M
110 INPUT PROMPT "N=":N
120 
130 FOR I=0 TO 
140   LET X=X*(M+I)
150 NEXT I
160 IF  THEN
170   PRINT "8 で割り切れます "
180   
190 END IF
200 PRINT "8 で割り切れません "
210 END
    
```

(数学Ⅱ・数学B第6問は次ページに続く。)

(1) [プログラム1]の **ア** に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- |               |           |             |
|---------------|-----------|-------------|
| ① LET X=0     | ② LET X=1 | ③ LET X=M   |
| ④ LET X=M+N-1 | ⑤ LET N=M | ⑥ LET N=M+N |

**イ** に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- |       |         |       |
|-------|---------|-------|
| ① M-1 | ② M     | ③ N-1 |
| ④ N   | ⑤ M+N-1 | ⑥ M+N |

**ウ** に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- |                                 |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| ① $N - \text{INT}(N/8) * 8 < 0$ | ② $N - \text{INT}(N/8) * 8 = 0$ | ③ $N - \text{INT}(N/8) * 8 > 0$ |
| ④ $X - \text{INT}(X/8) * 8 < 0$ | ⑤ $X - \text{INT}(X/8) * 8 = 0$ | ⑥ $X - \text{INT}(X/8) * 8 > 0$ |

**エ** に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| ① LET X=X+1 | ② LET M=M+1 | ③ LET X=X/8 |
| ④ GOTO 150  | ⑤ GOTO 200  | ⑥ GOTO 210  |

(2) [プログラム1]を実行したとき、「8で割り切れます」と出力されるような変数M、Nへの入力について、M+Nの値の最小値は **オ** である。

また、変数Mにどんな自然数を入力しても、つねに「8で割り切れます」と出力されるような変数Nへの入力がある。このような変数Nへの入力のうち、最小の自然数は **カ** である。

(数学Ⅱ・数学B第6問は次ページに続く。)

## 数学Ⅱ・数学B

二つの自然数  $M$  と  $L$  が与えられたとき、条件

「 $N$  は  $L$  以下の自然数であり、かつ  $M$  から始まる  $N$  個の連続する自然数の積  $M \times (M+1) \times (M+2) \times \cdots \times (M+N-1)$  は  $2^N$  で割り切れるが  $2^{N+1}$  では割り切れない」……………(\*)

を満たす  $N$  の個数を求めたい。そのために、〔プログラム1〕を変更して、〔プログラム2〕を作成した。ただし、100行と、120行から150行まで、190行、210行は変更していない。

〔プログラム2〕

```
100 INPUT PROMPT "M=":M
110 INPUT PROMPT "L=":L
112 
114 FOR N=1 TO L
120   
130   FOR I=0 TO 
140     LET X=X*(M+I)
150   NEXT I
152   LET K=2^N
160   IF  THEN
170     LET K=K*2
180     IF  THEN
182       
184     END IF
190   END IF
200 NEXT N
202 PRINT " 求める個数は ";C
210 END
```

(数学Ⅱ・数学B第6問は次ページに続く。)

(3) [プログラム2]の **キ** に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- |           |             |             |
|-----------|-------------|-------------|
| ① LET C=0 | ② LET C=M-1 | ③ LET C=L-1 |
| ④ LET C=1 | ⑤ LET C=M   | ⑥ LET C=L   |

**ク** , **ケ** に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。ただし、同じものを選んでもよい。

- |                                 |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| ① $N - \text{INT}(N/K) * K < 0$ | ② $N - \text{INT}(N/K) * K = 0$ | ③ $N - \text{INT}(N/K) * K > 0$ |
| ④ $X - \text{INT}(X/K) * K < 0$ | ⑤ $X - \text{INT}(X/K) * K = 0$ | ⑥ $X - \text{INT}(X/K) * K > 0$ |

**コ** に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| ① LET X=X+1 | ② LET N=N+1 | ③ LET K=K*2 |
| ④ LET C=C+1 | ⑤ GOTO 200  | ⑥ GOTO 210  |

(4) [プログラム2]を実行し、変数Mに4、変数Lに5を入力したとき、202行で出力される変数Cの値は **サ** である。

(5) [プログラム2]において、条件(\*)を満たすNの値をすべて出力するためには、たとえば、**シ** に

PRINT N

という行を挿入すればよい。**シ** に当てはまるものを、次の①～③のうちから一つ選べ。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| ① 110行と112行の間 | ② 150行と152行の間 |
| ③ 180行と182行の間 | ④ 200行と202行の間 |

# 問題訂正

## 数学②「数学Ⅱ・数学B」

訂正箇所	29ページ 下から2行目
誤	… $x$ は <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">八</span> 個あり, $M(x) < x$ かつ …
正	… $x$ は <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">八</span> 個ある。一方, $M(x) < x$ かつ …